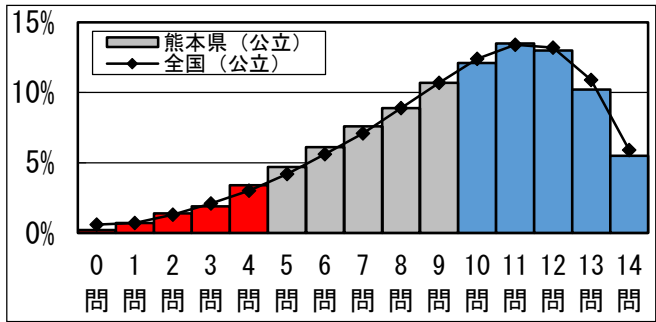


**令和 6 年度全国学力・学習状況調査
教科の結果分析と課題の改善に向けて**

熊本県教育委員会

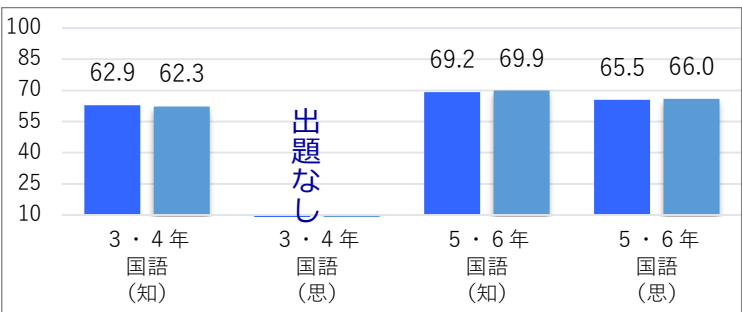
【正答数度数分布】



3割以下（4問以下）
県：7.6（-0.1）

7割以上（10問以上）
県：54.3（-1.5）

【観点別正答率】



全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出

本県 全国
※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続して全国を下回っている領域に関する問題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領の内容	評価の観点	正答率(%)		差
					県	全国	
1	― 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかをみる	5年6年	情報の扱い方に関する事項ア	知識	62.2	62.5	-0.3
	二 (1) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかをみる	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項イ	知識	74.2	75.9	-1.7
	(2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる	5年6年	「話すこと・聞くこと」ウ	思考	51.4	52.9	-1.5
	三 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる	5年6年	「話すこと・聞くこと」ア	思考	61.3	63.8	-2.5
2	― (1) 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかをみる	5年6年	「書くこと」ア	思考	79.2	80.3	-1.1
	一 (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる	5年6年	情報の扱い方に関する事項イ	知識	86.1	86.9	-0.8
	二 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる	5年6年	「書くこと」ウ	思考	58.4	56.6	1.8
	三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項工	知識	43.3	43.4	-0.1
	三イ	5年6年	言葉の特徴や使い方にに関する事項工	知識	75.2	76.0	-0.8
3	― 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかをみる	3年4年	言葉の特徴や使い方にに関する事項力	知識	62.9	62.3	0.6
	二 (1) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる	5年6年	「読むこと」イ	思考	64.5	66.9	-2.4★
	二 (2) 人物像を具体的に想像することができるかをみる	5年6年	「読むこと」エ	思考	73.3	72.5	0.8
	三 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる	5年6年	「読むこと」エ	思考	73.5	72.6	0.9
	四 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかをみる	5年6年	我が国の言語文化に関する事項オ	知識	73.6	74.6	-1.0

改善が見られるもの

- ①記述式の問題（2二、3三）は全て全国平均を上回っており、無解答率は、1問（2三ア）を除き全国平均より低い。
②情報の使い方にに関する事項アイについては昨年度より改善し、全国平均との差が縮まっている。
※全国平均との差 情報の扱い方に関する事項ア（R5：-1.0 → R6：-0.3） 情報の扱い方に関する事項イ（R5：-1.3 → R6：-0.8）

課題が見られるもの

- ①「話す・聞く」の内容は課題であり、特に「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」や「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」の定着が十分ではなかった。⇒次のページの内容へ
②学年別漢字配当表に示されている「漢字を文の中で正しく使うこと」については、全国平均との差が広がっており課題である。
※該当する問題の平均値における全国平均との差（R4：+1.6 → R5：+0.1 → R6：-0.5）

課題: 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討し、自分の考えを伝えること。「A 話すこと・聞くこと」

○大問1の正答率(小問別)

	一	二(2)	三
問題概要	目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する	自分の考えが伝わるよう表現を工夫する	集めた材料を分類・関係づけるなどして、内容を検討する
県正答率	62.2%	51.4%	61.3%
全国比	-0.3	-1.5	-2.5

改善に向けて: 集めた情報を相手に伝わるように整理する場を設定し、そのよさを振り返る活動を通して、目的や意図に応じて情報を整理することについて児童の理解を深める。

令和6年度の問題について 1三

和田さんは【オンライン交流の様子の一部】を振り返り、発言⑮のところで、【和田さんのメモ】が役に立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
※選択肢については要約して記載、正答は4

- 相手の学校の情報を整理していたので、事実と感想を区別して伝えることができた。
- 相手の学校の情報を整理していたので、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 自分の学校の情報を整理していたので、事実と感想を区別して伝えることができた。
- 自分の学校の情報を整理していたので、複数の情報をまとめて伝えることができた。

【誤答例】

- ・1と解答しているもの(県 5.7%、全国 5.1%)
- ・2と解答しているもの(県 14.7%、全国 13.3%)
- ・3と解答しているもの(県 17.7%、全国 16.6%)
- ・無解答(県 0.5%、全国 0.9%)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

- 児童が複数のテーマから伝えたいことを選択し、その目的や意図に応じて、伝える内容を検討する(情報を整理する)場面を設定しましょう。
- 学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することや資料を提示することのよさについて、自分や級友の実際の活動を基に話し合う場を設けましょう。

【情報を整理する際の視点(例)】

- ・自分が伝えたい内容と相手が知りたい内容に分ける。
- ・目的に応じて、伝える内容に優先順位を付ける。
- ・分かりやすく伝えるために提示する資料を検討する。

例えばこのような授業の場面を通して(スピーチの授業例)

- ①目的や意図に応じて様々なアイデアを出しながら情報を整理し、伝え合う内容を検討するとともに、再構成した内容に適切な価値付けをする。
- ②学習を振り返り、情報を整理することや資料を提示することのよさについて確認し、学級全体の学びとして理解を深める。

①

自分が伝えたいことをたくさん集めたけど、どうしたら相手に伝わるスピーチになるのかな。

集めた情報を相手に伝えるためにはどうしたらよいかという悩みに、班のみんなでよいアドバイスを考えましょう。

まずは、自分が必ず伝えたいことを赤ペンで囲んで、他と区別したらどうかな。

言葉で聞いただけでは分かりにくいものは、写真やグラフを見せると分かりやすいよ。

自分が伝えたいこと

- 食品ロスで捨てられる量
- 食品ロスが発生する場所
- 食品ロスで捨てられる食べ物の種類
- テレビで見たレストラン

食べ物を大切に感じた体験

アンケート結果

アンケート結果はグラフで示そう。食べ物を大切に感じた経験ともつなげよう。

この2つは伝えたいから赤で囲もう。

この情報は質問されたら答えよう。

班のみんなで出し合ったアドバイスを基に、みなさんも情報を整理しながら自分のスピーチを伝える内容や構成を検討してみましょう。

②

スピーチの学習を通して、集めた情報を分かりやすく伝えるために工夫したことについて振り返りましょう。

調べたことを全部伝えるのではなく、自分の伝えたいことを整理してスピーチすることが大切だと気付いたよ。

数字を伝える場面で、グラフを見せたら、「分かりやすかった」と言ってくれたよ。

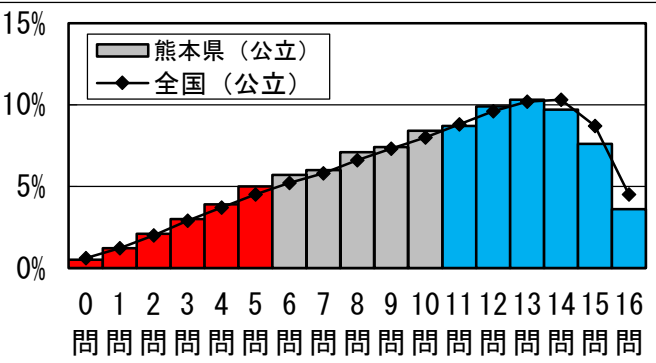
いいところに気付きましたね。あらかじめ情報を整理しておくことで、他にどんなよさがありましたか。

調べたことだけを言うのではなく、そこに自分の体験を交えたから分かりやすかったという感想をもらったよ。

調べたことを最初から全部伝えるのではなく、質問がきたら答えるものと分けたからよかったよ。

自分の体験を交えて話すと相手に共感してもらえますね。また、自分が伝えたいことを整理することで、伝えたいことがはっきりとしたスピーチになりましたね。みなさんも、活動を通して学んだことを振り返りましょう。

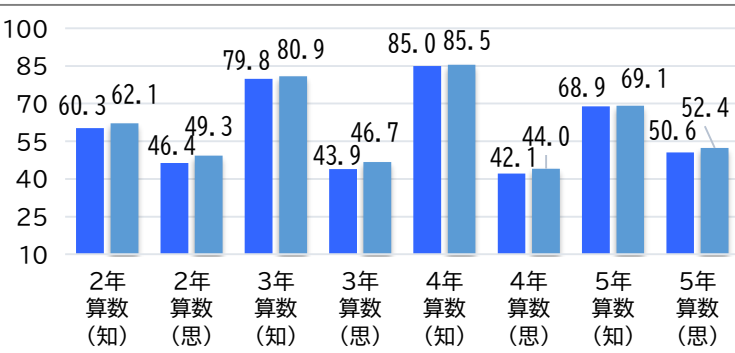
【正答数度数分布】



3割以下 (5問以下) 県: 15.7 (+0.8)
7割以上 (11問以上) 県: 49.8 (-2.3)

【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



本県 全国
※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は類似した出題趣旨で、過去継続して全国を下回っている問題

問題番号	出題の趣旨	学年	単元名等 (領域)	観点	正答率(%)		差
					県	全国	
1	(1) 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2年	たし算とひき算 (数と計算)	知識	60.3	62.1	-1.8
	(2) 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3年	□を使った式 (数と計算)	知識	87.2	88.5	-1.3
2	(1) 計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3年	かけ算の筆算 (数と計算)	思考	53.4	56.9	-3.5★
	(2) 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5年	小数のわり算 (数と計算)	知識	68.2	69.1	-0.9
3	(1) 直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4年	直方体と立方体 (図形)	知識	85.0	85.5	-0.5
	(2) 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5年	角柱と円柱 (図形)	知識	70.6	71.3	-0.7
	(3) 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3年 5年	円と球 (図形) 体積 (図形)	思考	33.6	36.5	-2.9
	(4) 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5年	角柱と円柱 (図形)	思考	71.5	72.0	-0.5
4	(1) 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5年	小数のわり算 (数と計算)	知識	71.5	70.1	1.4
	(2) 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	思考	66.5	70.0	-3.5★
	(3) 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	思考	30.9	31.0	-0.1
	(4) 速さの意味について理解しているかどうかをみる	5年	単位量あたりの大きさ (変化と関係)	知識	53.5	54.1	-0.6
5	(1) 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	5年	帯グラフと円グラフ (データの活用)	知識	80.5	80.8	-0.3
	(2) 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	3年	表とグラフ (データの活用)	知識	72.4	73.3	-0.9
	(3) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	3年 4年	表とグラフ、折れ線グラフ (データの活用)	思考	42.1	44.0	-1.9
	(4) 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2年 3年	100をこえる数 (数と計算) 表とグラフ (データの活用)	思考	46.4	49.3	-2.9

改善が見られるもの ①図形領域における正答率の全国平均との差が昨年度より改善している。(R5: -2.6 → R6: -1.1)
②除数が小数である場合の除法の計算をすることができる児童の割合が多い。

課題が見られるもの ①計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。⇒ **次ページの内容へ**
②全国に比べ、正答率3割以下の児童の割合が多く、7割以上の割合が少ない。

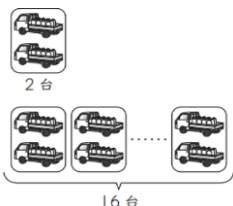
課題: 計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。

○大問2の正答率(小問別)

	2(1)	2(2)
問題概要	計算について成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について検討する
県正答率	53.4%	68.2%
全国比	-3.5	-0.9

課題改善に向けて: 図や式を用いて、計算の性質を問題場面と関連付け、表現する場面を設定する。

令和6年度の問題 2(1)



$$\begin{array}{rcl} 350 \times 2 & = & 700 \\ \downarrow \times \text{ア} & & \downarrow \times \text{イ} \\ 350 \times 16 & = & \text{①} \end{array}$$

上のアに入る数に着目すると、 350×16 の積イは、どのように求めることができますか。アに入る数に着目したときのイの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、アに入る数をどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、イに入る数も書きましょう。

【正答】① 16が2の8倍であることを表している式や言葉
② 700の8倍になることを用いて、 350×16 の積イを求める式や言葉
(①、②の全てを書き、イを5600と書いている。)

【誤答例】・①のみを書いている (県10.3%、全国9.5%)
・②のみを書いている (県4.6%、全国4.6%)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする

①計算の性質を活用していることを、図や式を用いて、問題場面と関連付けましょう。

②図や式を用いた説明を促し、児童が筋道を立てて説明できるようにしましょう。



例えばこのような授業の場面を通して

①図や式を用いて、場面と関連付ける。②図や式を用いた説明を促す。

① 350×16 だから、筆算すれば答えが出せるね。

わざわざ筆算しなくても求められそうだよ。トラック2台分のときの米の重さが分かっているでしょ。

えっ！筆算しなくても求められるのですね！トラック2台分のときの重さをどのように使うのですか。

トラックの数が16台ということは、2台の8倍になります。米の重さも同じように8倍すればいいです。

そう言えば、かけ算では、かける数を○倍にすると、積も○倍になるんだっけ。

かけ算の決まりが使えるそうですね。それでは、今言ったことを、みんなで図や式で表してみましょう。

② 図や式を使いながら、トラック2台分のときの米の重さをもとにして、トラック16台のときの米の重さの求め方を説明しましょう。

トラック2台分の米の重さは 350×2 なので700kgです。

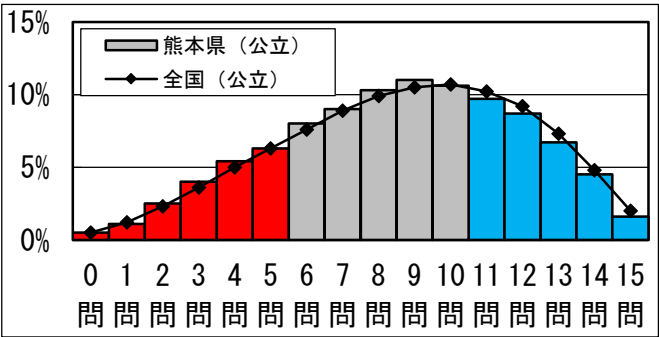
トラックが16台のときは、2台の8倍になるということだね。

トラックの数が8倍なので、米の重さも8倍になるね。 700×8 を計算すると、5600kgになります。

筆算をしなくても、倍に着目すると求められたよ。図や式を使うと、それぞれの関係が見えてきたね。友達の説明も分かりやすくなったよ。

※状況に応じて、児童に問い返して説明を明確にさせたり、児童の言葉を板書して、図や式の意味を黒板上で明らかにする手立ても考えられます。

【正答度数分布】

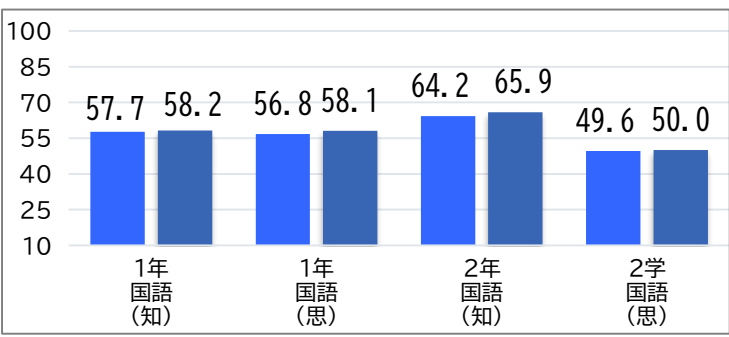


3割以下(5問以下)
県: 19.8(+0.9)

7割以上(11問以上)
県: 31.2(-2.3)

【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続して全国を下回っている領域に関する問題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領の内容	評価の観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1一	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」エ	思考	61.3	63.2	-1.9
1二	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	2年	「話すこと・聞くこと」ウ	思考	65.4	68.5	-3.1
1三	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1年	「情報の扱い方に関する事項」ア	知識	42.8	44.0	-1.2
1四	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」オ	思考	45.6	44.7	0.9
2一	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	2年	「読むこと」ウ	思考	35.9	36.3	-0.4
2二	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2年	「情報の扱い方に関する事項」ア	知識	74.5	75.2	-0.7
2三	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	2年	「読むこと」ア	思考	62.2	64.5	-2.3
2四	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	1年	「読むこと」ウ	思考	39.6	42.6	-3.0★
3一	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	1年	「書くこと」ア	思考	80.8	81.4	-0.6
3二	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」オ	知識	52.0	53.8	-1.8
3三	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」ウ	知識	66.2	68.8	-2.6
3四	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	2年	「書くこと」ウ	思考	50.8	49.3	1.5
4一	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」オ	知識	53.5	54.9	-1.4
4二	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	1年	「読むこと」イ	思考	47.9	48.3	-0.4
4三	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	1年	「我が国の言語文化に関する事項」エ（イ）	知識	76.9	75.6	1.3

改善が見られるもの

- ①行書の特徴の理解は、令和4年度より改善している。※全国平均との差（R4：+0.4→R6：+1.3）
- ②「書くこと」ウの「自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」については、昨年度より改善し、全国平均を上回っている。
※全国平均との差（R5：-2.5→R6：+1.5）

課題が見られるもの

- ①「読むこと」の内容は、継続的な課題であり、「文章を要約すること」の定着が特に十分ではなかった。⇒次のページの内容へ
- ②知識及び技能の内容は、文の成分などの文法や漢字を正しく書くことなども継続的な課題である。
「文脈に即して漢字を正しく書くこと」※全国平均との差（R4：-1.9→R5：-2.9→R6：-2.6）

課題①：目的や意図に応じて、必要な情報に着目して要約すること。「C 読むこと」

○大問2の正答率(小問別)

	一	三	四
問題概要	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える	目的に応じて必要な情報に着目して要約する
県正答率	35.9%	62.2%	39.6%
全国比	-0.4	-2.3	-3.0

課題改善に向けて：伝える対象や目的を意識して、必要な情報に着目して要約する場面を設ける。

令和6年度の問題 2四

本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで要約しなさい。

ア 筆者が葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

問題について

(正答の条件) ①～③を満たしている。

- ①アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んでいる。
- ②選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げている。
- ③選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。

【誤答例】

- 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの(36.1%)



「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

- 目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える活動を設定しましょう。
- 単元の中で、要約のポイントを振り返る場面を設けましょう。

【「要約」の視点(例)】

- ・段落に分け、文章構成を捉える。
- ・キーワードや中心文を捉える。
(題名、繰り返し出てくる言葉、接続語、指示語を手掛かりにする。)
- ・文末、接続語、重複している内容、例など、不要な語句や内容を削る。

例えばこのような授業の場面を通して

※ 説明的な文章や実用的な文章を読んで、何を誰に伝えるか目的を決めて、要約する。

【生徒が作成した要約文】 ※参考：「第3次 熊本県動物愛護推進計画」

〈動物を飼おうと考えている皆さんへ〉

「命を大切に、やさしさあふれる人と動物が共生するくまもと」を実現するためには、飼い主の意識が大切です。飼い主は、動物の所有者を明示して、最後まで適正に飼うこと等が必要になります。飼い主になろうと考えている皆さんは、「犬猫の殺処分ゼロを目指す」ためにも、飼い主の意識の向上に御協力ください。

伝える対象と目的をそれぞれ決めてください。

目的に応じた要約するには、どうすればいいのだろう？

私は動物を飼おうと考えている人の意識を高める要約文にします。

小学校の時に、中心となる語や文を見付けて要約したな。

目的に応じた要約になっているか検討する場を設ける

「目的」は、「動物を飼おうとしている人」の意識の向上だね。

目的から考えると、「最後まで適正に飼うこと」は、欠かせない情報だね。

「犬猫の引き取り数を減らすための対策」の部分は、「飼い主の意識の向上…」の前に必要な情報だと思うな。

目的を踏まえて、伝えたいことに関する中心語や中心文を探すといいね。

要約のポイントを振り返る場を設ける

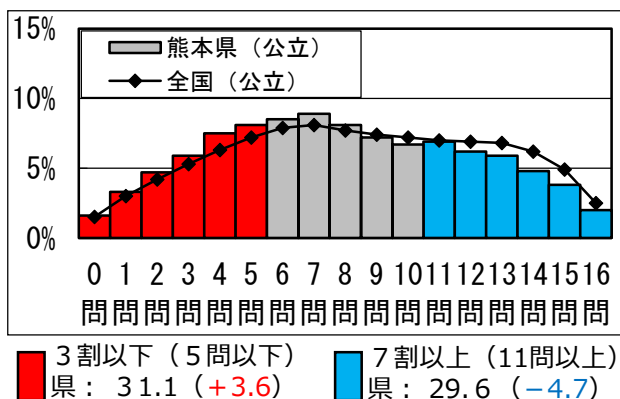
要約を通して、気付いたことや難しかったことを振り返りましょう。

文や語をつなぎ合わせる際は、別の言葉で言い換えたり、言葉を補ったりするのが難しかったな。

文末の表現や具体例などの不要な語句や内容を削っていくと文章が短くなっていくね。

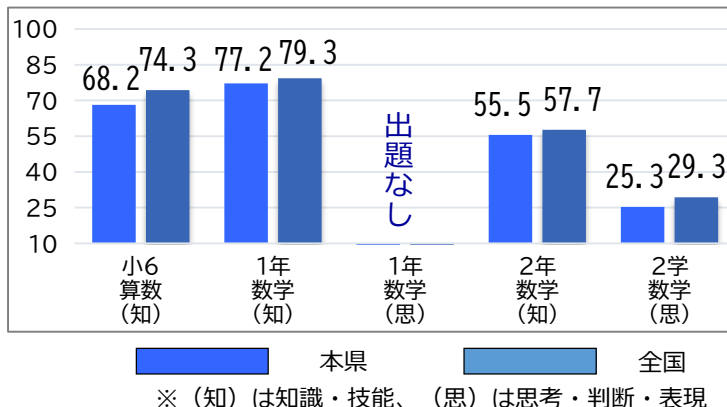
中心となる語や文を見付けるために、繰り返し出てくる言葉や指示語に着目するとまとめやすくなるね。

【正答数度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの

※★は類似した出題趣旨で、過去継続して全国を下回っている問題

問題 番号		出題の趣旨	学年	単元名等 (領域)	評価の 観点	正答率(%)		差
						県	全国	
1		連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式 (数と式)	知識	29.1	34.8	-5.7
2		等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式 (数と式)	知識	49.6	52.5	-2.9
3		回転移動について理解しているかどうかをみる	1年	平面図形 (図形)	知識	65.2	68.3	-3.1
4		一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	2年	一次関数 (関数)	知識	66.4	65.3	1.1
5		簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	2年	データの分布 (データの活用)	知識	70.2	73.1	-2.9
6	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1年	正の数と負の数 (数と式)	知識	89.2	90.2	-1.0
	(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式 (数と式)	思考	28.4	35.9	-7.5 ★
	(3)	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式 (数と式)	思考	39.8	41.8	-2.0
7	(1)	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	小学 6年	資料の整理 (データの活用)	知識	68.2	74.3	-6.1
	(2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年	データの分布 (データの活用)	思考	23.1	25.9	-2.8
	(3)	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	2年	データの分布 (データの活用)	知識	47.7	48.5	-0.8
8	(1)	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年	一次関数 (関数)	知識	82.5	83.4	-0.9
	(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2年	一次関数 (関数)	思考	15.2	17.1	-1.9
	(3)	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年	一次関数 (関数)	知識	75.9	76.9	-1.0
9	(1)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2年	図形の合同 (図形)	思考	20.1	25.8	-5.7 ★
	(2)	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	2年	図形の合同 (図形)	知識	22.9	26.7	-3.8

改善が見られるもの

①正答率3割以下の割合が昨年度より改善している。(全国との差/R5: +4.2 → R6: +3.6)

②一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することができている生徒の割合が全国に比べ多い。

課題が見られるもの

①「数と式」領域において、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる。⇒ 次ページの内容へ

②全国に比べ、正答率3割以下の生徒の割合が多く、7割以上の割合が少ない。

課題①：「数と式」領域において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること。

○大問1の正答率の推移(R4～R6)

	R6	R5	R4
問題概要	連続する2つの偶数を n を用いて表す	自然数をすべて選ぶ	42を素因数分解する
県正答率	29.1%	37.9%	47.3%
全国比	-5.7	-8.2	-4.9

課題改善に向けて：問題解決の際に、既習事項の定着を確認する場面を設ける

令和6年度の問題

- 1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

問題について

【正答例】 $2n$ 、 $2n+2$ など、連続する2つの偶数を解答しているもの。
(解答の順番は不問。以下同様。)

【誤答例】・「 $2n$ 」や「 $2n+(\text{具体的な数})$ 」、「 n 」や「 $n+(\text{具体的な数})$ 」以外で n を用いて2つの整数を表しているもの(県11.1%、全国9.1%)

【無解答】(県16.2%、全国14.3%)

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文字を用いた式(1年知技A(2)ア、思考表A(2)イ)
- 文字を用いた式(2年思判表A(1)イ)

「児童生徒を学びの主体」とする授業へ

既習事項を活用して問題解決する場面では、実態に応じて、問題解決に取り組む前に、活用する既習事項が定着しているか確認しましょう。



既習事項を繰り返し確認することは、生徒にとってこれまでの学習を振り返ったり、これまで分からなかったことを理解したりすることにつながります。



例えばこのような授業の場面を通して

※第2学年「2つの連続する偶数の和は必ず偶数になること」や第3学年「2つの連続する偶数の積に1を加えた数は、奇数の2乗になること」等、文字を用いた式を活用する学習活動で、まずは生徒が文字を用いた式で数量(偶数、奇数や○の倍数等)を表すことができるか、確認する場面を設ける。

n を自然数とすると、偶数は n を使ってどのように表していましたか？

どう表すのだろう。

$2n$ だったかな。

偶数は2の倍数だったな。

生徒の定着状況を把握する

青い吹き出しの生徒が多い場合

$2n$ の次の偶数は n を用いてどのように表せるか考えましょう。(思考する時間を確保する。)

$2n+2$ だと思います。

〇〇さんは、どうしてそう考えたと思いますか？

偶数は2ずつ増えるから $2n$ に2を加えたのだと思います。

理由を問い、考えを共有する場を設ける

赤い吹き出しの生徒が多い場合

偶数は2、4、6、8などの数ですね。

だから偶数は2の倍数なんだね。

つまり n を2倍するといいから $2n$ だね。

偶数はどのように増えていますか？

2ずつ増えます。

あ！ということは $2n$ の次の偶数は…

$2n$ と $2n+2$ の和を計算すると証明できそうだね。

2つの和が偶数ならば、2の倍数だから $2 \times \text{何か}$ で表すことができそうだな。

では実際に説明を考えてみましょう。

※本県では思考力・判断力・表現力等に関する問題についても、継続して課題が見られます。生徒の定着状況を把握した上で、既習事項を基に根拠を説明する活動等に取り組ましましょう。